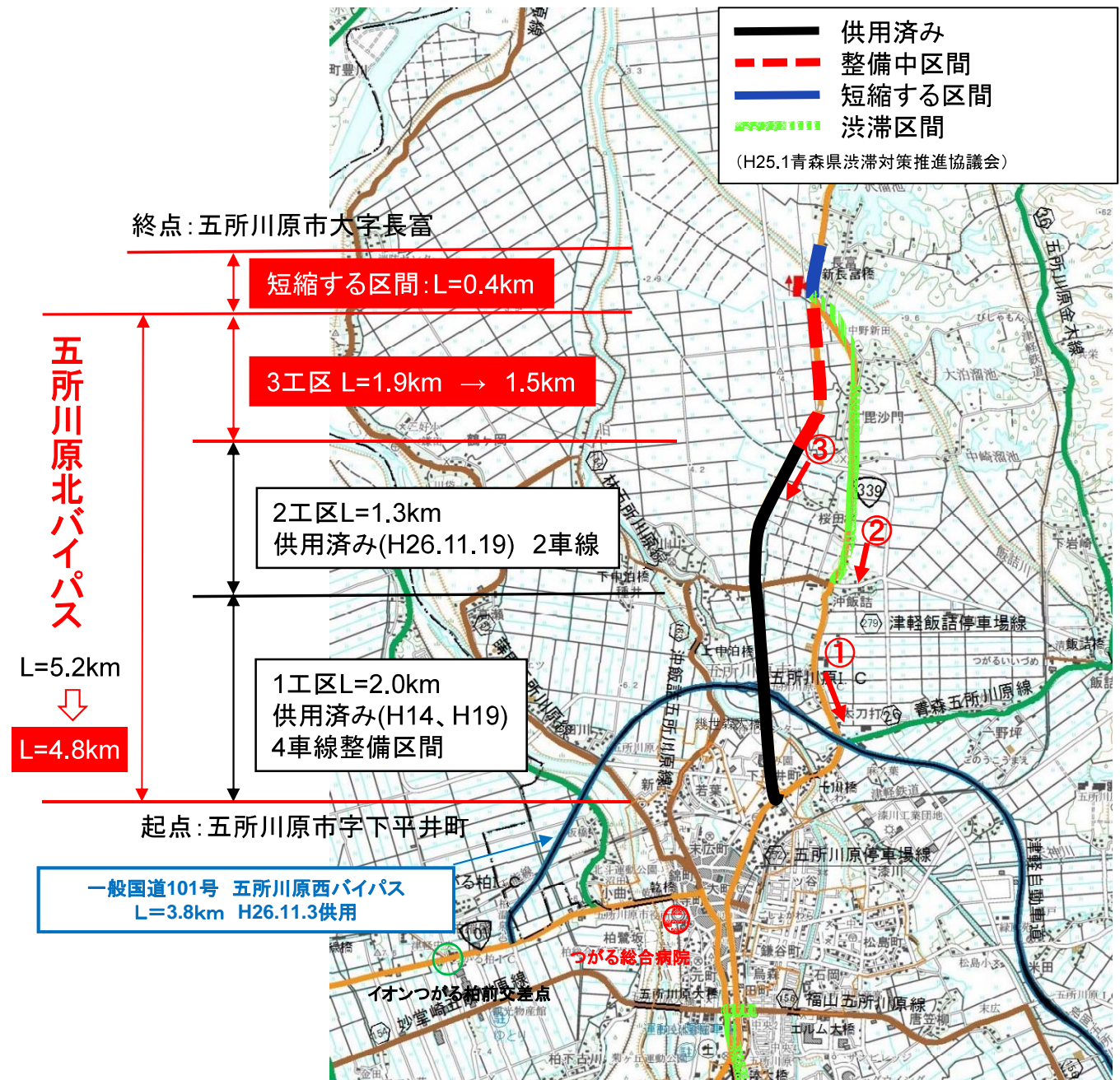
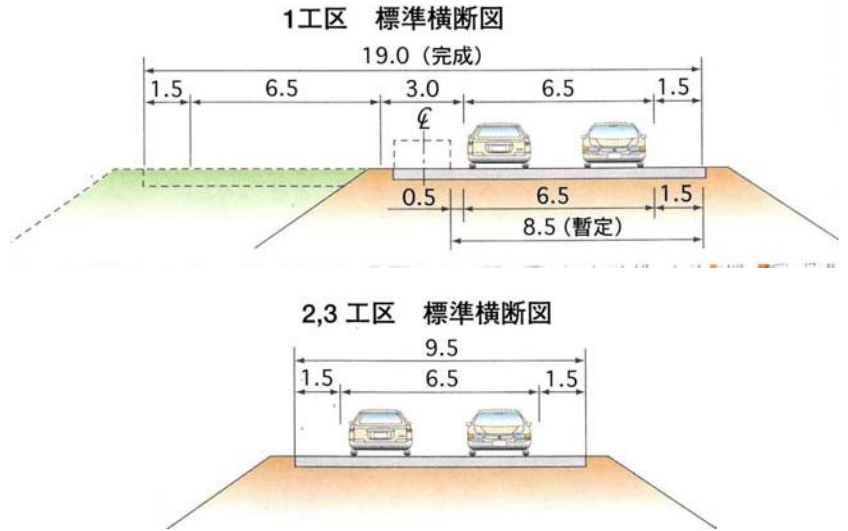
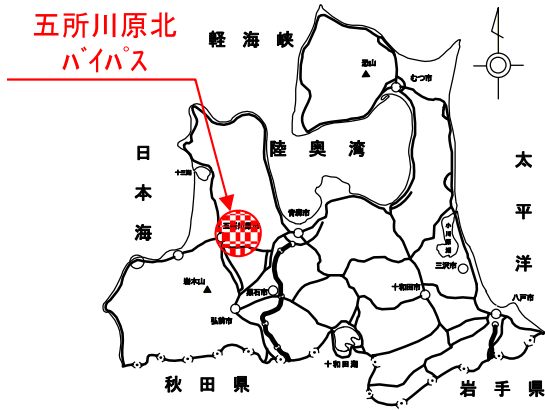


[全体計画図]



駒込ダムにおける環境調査の概要

環境調査結果一覧

環境要素の区分	細区分	実施年度	調査内容と結果	配慮事項	学識経験者との打合せ結果
大気	粉塵 騒音 振動	・H16	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施区域及びその周辺において風向・風速、交通量及び振動について現地調査を実施した。 現地調査結果を基に工事用車両の増加、建設作業による大気環境への影響予測を行った結果、工事による影響は小さいと予測された。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な散水 工事用車両の洗浄 工事により発生する裸地の早期緑化 	
水環境	SS PH 水温 富栄養化 溶存酸素	<ul style="list-style-type: none"> ・H8 ・H15 ・H16 	<ul style="list-style-type: none"> 駒込川流域において、SS、PH等の水質調査を実施し、工事中及びダム供用時の予測を行った。 その結果、工事中のSS負荷量がダムサイト地点で環境基準を上回る日数が10ヶ年平均で35日程度増加すると予測された。 また、ダム供用時に10ヶ年平均で47日程度の温水放流が生じると予測された。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂による濁りの影響を軽減するため、濁水処理プラント及び沈砂池等の対策を講じる。 上下の取水口の放流量を調節し、水温管理を行う。 	
動物	哺乳類	<ul style="list-style-type: none"> ・H7～8 ・H16 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 6目11科21種を確認。 重要な種として、11種を確認。 事業の実施に伴い生息環境の一部は消失するものの、周辺に同様の生息環境が広く残されることから、影響は小さいものと判断される。 		<ul style="list-style-type: none"> H17年6月16日打合せ結果 ツキノワグマの確認は重要な記録である。ダム事業の影響がツキノワグマに及ぼす影響はあまりないと考えられる。 中、大型哺乳類は、調査地内で生息が想定される種がほとんど記録されている。 コウモリ類の調査が不十分と思われる。後日、同行して頂き追加調査を実施、了解を得た。
	鳥類	<ul style="list-style-type: none"> ・H8、H16（一般鳥類） ・H4～H17（シノリガモ） ・H8、H11～H17（猛禽類） 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 13目35科107種を確認。 重要な種として、29種を確認。 一般鳥類について、事業の実施に伴い生息環境の一部は消失するものの、現地調査における確認地点が事業実施により影響が大きいと考えられる区域の外であることから、影響は小さいと判断される。 シノリガモについては、毎年の営巣地点が湛水域より上流に位置し、近傍の繁殖地においてもダム上流域に繁殖地が多く見られることから、ダム完成後においても本地域はシノリガモの繁殖地として維持されるものと考えられる。 希少ワシタカ類については、周辺部において繁殖の可能性があるのは、ハチクマとハイタカが挙げられたものの、巣探し調査の結果、巣は確認されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類等の生息環境の保全に配慮し、工事に当たっては、樹木の伐採は繁殖期（およそ5月～9月）をできるだけ避ける。 シノリガモ及び希少ワシタカ類の調査については、ダム本体着工前、工事中、工事完了後に再度モニタリング調査を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> H17年6月15日等打合せ結果 一般鳥類の保全措置としてできるだけ大径木を残し、また工事時期に配慮してほしい。樹木の伐採は繁殖期（およそ5月～9月）を避け、工事に際してはモニタリング調査を実施することが望ましい。 シノリガモについては、繁殖及び営巣地点が湛水域より上流に位置しており、ダム完成後における生息・繁殖地への影響は少ないものと考えられる。 希少ワシタカ類については、今後、巣が移動することもあるため、工事着工前には再度調査することが望ましい。 なお、シノリガモについては、日本野鳥の会とも意見交換を行っている。

環境要素の区分	細区分	実施年度	調査内容と結果	配慮事項	学識経験者との打合せ結果
動物	爬虫類	・ H 8 ・ H 1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施区域から約500mの範囲において、調査を行った。 ・ 1目3科6種を確認。 ・ 重要な種は確認されなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ H 1 7年5月16日打合せ結果 調査手法、取りまとめ方法については基本的に問題ない。 現地調査の結果、重要な種が確認されなかったことから、ダム事業による影響は少ないものと考えられる。
	両生類	・ H 8 ・ H 1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 ・ 2目5科7種を確認。 ・ 現地調査では、確認されなかったが、文献調査においてクロサンショウウオが田代平や八甲田の湿原等で数多く確認されていることから、クロサンショウウオ1種を重要な種とした。 ・ 事業予定地域及びその周辺には本種の生息環境である止水域が分布する。事業の実施に伴い生息環境である止水域の一部は消失するものの、類似の生息環境が周辺部に広く残存することから、影響の程度は小さいものと判断される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 濁水処理プラント及び沈砂池等の設置を行い土砂による水の濁り等を軽減する。 ・ 工事着工時に本種が確認された場合は同様の生息環境に移植する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H 1 7年5月16日打合せ結果 調査手法、取りまとめ方法については基本的に問題ない。 現地調査の結果、重要な種が確認されなかったことから、ダム事業による影響は少ないものと考えられる。
	魚類	・ H 8 ・ H 1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駒込川沿川及び事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 ・ 3目4科4種を確認。(河口部、支川) ・ 重要な種は確認されなかった。 		
	陸上昆虫類	・ H 8 ・ H 1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 ・ 15目255科1,922種を確認。 ・ 重要な種として、28種を確認。 ・ 事業の実施に伴い生息環境の一部は消失するものの、周辺には類似環境があり、影響は小さいものと判断される。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ H 1 7年6月17日打合せ結果 昆虫類の確認数1,922種は、このような調査では数が多い方で精度は高い。敢えて言えば、八手目が少ない等、目によってばらつきがある。 重要な種の評価については、説明のとおりで問題ないと思われる。
	底生生物	・ H 8 ・ H 1 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駒込川沿川及び事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 ・ 15目61科119種を確認。 ・ 重要な種として、2種を確認。 ・ コオイムシは事業区域から遠い下流での確認であり、事業の影響は小さいと判断される。 ・ サワガニは生息環境である支流の一部が湛水池に改変されるが、多くはダム完成後も現状のまま維持されることから影響は小さいものと判断される。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ H 1 7年6月17日打合せ結果 事業の実施が自然環境に影響がないとは言えない。自然環境への負荷を最小限に押さえる必要がある。

環境要素の区分	細区分	実施年度	調査内容と結果	配慮事項	学識経験者との打合せ結果
植物	植物相	<ul style="list-style-type: none"> ・ H 8 ・ H 1 4 ~ H 1 6 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駒込川沿川及び事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 ・ 116科714種を確認。 ・ 重要な種として、16種を確認。 ・ 事業の実施に伴い生息環境の一部は消失するものの、改変区域内で生育が確認された個体は少なく、多くは周辺地域で生育が確認されたもので、しかも周辺地域には類似の生育環境が広く確認されていることから、影響は小さいものと判断される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木の伐採に当たっては、可能な限り伐採面積を最小限に留めるよう努めることとし、貯水池については、常時満水位以上の樹木は伐採しないこととしている。 ・ 本体及び工事用道路等の掘削により発生する表土については、土捨場等の覆土材料に利用するため、一旦ストックしておき、現地植生の復元に努める。 ・ 工事により発生する法面は、現地在来種による緑化を積極的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H 1 7 年 6 月 3 日等打合せ結果 ・ 現地調査結果より選定された重要種の現況、予測等の整理は問題ないと思われる。 ・ 開発と保護の調整は難しい。周囲に残された類似の環境を大切に守っていくことが大事であると思われる。
	植物群落	<ul style="list-style-type: none"> ・ H 8 ・ H 1 5 ~ H 1 6 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駒込川沿川及び事業実施区域から約500mの範囲において調査を行った。 ・ 16タイプ27の植物群落を確認。 ・ 重要な群落は確認されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H 1 7 年 6 月 3 日等打合せ結果 ・ 植物相調査と比較して植物群落調査の重要度は低いと思われる。 ・ 田代平ではヤチダモ林は普通に見られ、群落としての重要度はないと思われる。

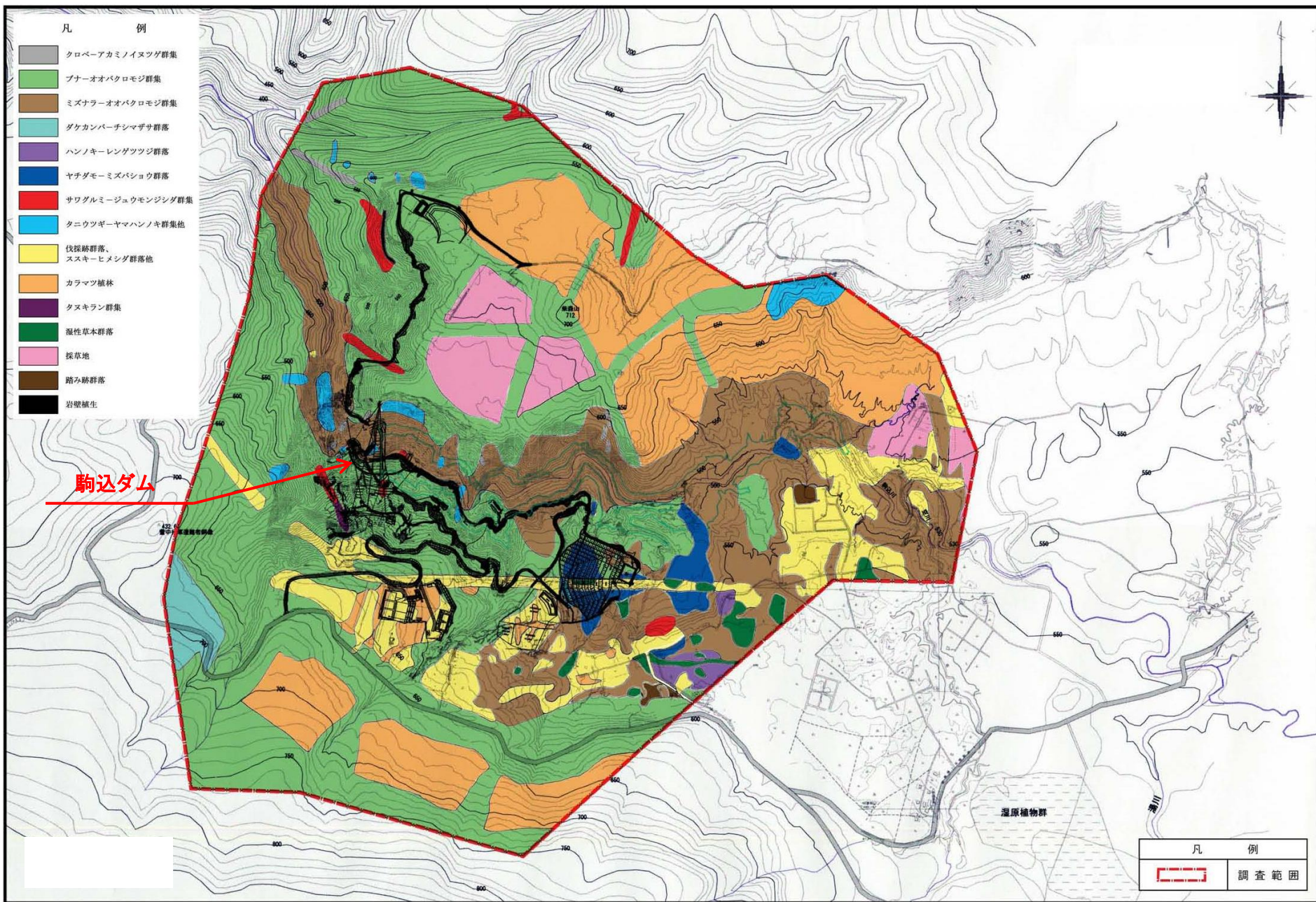


図-7.7 陸域(事業実施区域及びその周辺) 環境ベースマップ 植生区分図